

# 警 防 編

# 警防業務の概要

## 1 警防業務について

警防業務は、火災出動や救急救助出動はもとより、多種多様な災害から住民の生命、身体及び財産を守るため活動を行うことを任務としている。

このため、職員は、日々の訓練はもとより高度な技術を修得し、あらゆる災害に対処している。

平成28年度の火災出動等の主な出動状況は次表のとおりで、救急出場件数が全体の約98.5%を占めている。

平成28年度における主な警防活動概要		
区分	件数	比較
火災出動件数	7件	前年度比2件減
救急出場件数	991件	前年度比20件減
救助出動件数	8件	前年度比6件増

## 2 救急救命士と高規格救急自動車

救命率の向上を図るため、平成11年4月から救急救命士と高規格救急自動車が一体となった高度化救急業務を実施している。

救急救命士は、医師の具体的な指示を受けて心肺機能停止状態の傷病者に器具を用いた気道確保、乳酸リンゲル液を使用しての静脈路確保及びアドレナリン投与等高度な救命処置を行うことができる。平成26年9月からは拡大2行為として、いずれも心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保と輸液及び血糖測定とブドウ糖溶液投与の運用を開始している。このため、高規格救急自動車には、高度な救命処置資器材などが装備されている。

また、救急救命士の資質、技量の維持、向上を図るため、年24時間の病院実習や救急症例検討会等の救急救命士再教育を行っている。

なお、平成28年度末現在で、11人の救急救命士が救急業務に従事している。

## 3 携帯電話等からの119番通報

和歌山県内の携帯電話からの119番通報が、平成18年3月31日から災害現場を管轄する消防本部が直接受信する方式に替わった。これにより、転送等による通報の時間ロスが解消され、一刻を争う消防車・救急車の現場到着が早まり、被害の軽減や救命率の向上につながることを期待されている。

なお、当消防本部における平成28年度の携帯電話等からの119番通報受信件数（他消防本部への転送・伝送を除く。）は331件で、前年度に比べて86件の増となっている。



## 4 消防訓練等の指導と防火講習会

消防署では、学校や旅館・ホテル等に対して初期消火訓練や避難訓練の指導のほか、地域住民に対して天ぷら油火災の消火実験や消火器具の取扱い方法など火災を未然に防止するための防火講習会、各小中学校を対象に土砂災害、地震、津波についての防災講習会、いざという時のための救急法の講習会を開催している。

平成28年度の取扱件数は、次表のとおりです。

区分	対象施設・講習区分	取扱件数	従事職員数	参加人数	
訓練指導	保育所、小・中学校	11 件	33 名	893 名	
	旅館・ホテル等	18 件	98 名	233 名	
	病院、福祉施設等	21 件	86 名	607 名	
	その他	8 件	27 名	198 名	
	計	58 件	244 名	1,931 名	
講習会	防火・防災講習会	15 件	48 名	940 名	
	救命講習	上級救命講習	1 1 件	6 名	9 名
		普通救命講習	2 9 件	20 名	87 名
		基礎救命講習	3 32 件	86 名	775 名
	計	57 件	160 名	1,811 名	
合計		115 件	404 名	3,742 名	

- 1 上級救命講習とは、講習時間が8時間以上で、修了証が交付されるものをいう。
- 2 普通救命講習とは、講習時間が3時間以上で、修了証が交付されるものをいう。
- 3 基礎救命講習とは、普通救命講習に至らない講習をいう。

## 5 消防庁舎等の見学

平成28年度に消防庁舎、消防車両の見学に訪れた団体等は、次表のとおり  
また、平成11年度からは、中学生、高校生による職場体験学習も行われています。

区分	団体	件数	人員	備考
消防庁舎見学	保育所	4 件	64 名	下里保育所、南大居保育所 宇久井保育所、大野・井関 保育所
	小学校	5 件	141 名	勝浦小学校、下里小学校 市野々小学校、宇久井小 学校
職場体験学習	中学校	3 件	8 名	下里中学校、那智中学校 宇久井中学校
	高等学校	1 件	1 名	新翔高等学校
合計		13 件	214 名	

## 消防用資器材保有状況（警防）

平成29年4月1日

番号	機械器具名	数量	番号	機械器具名	数量
1	65mmホース×20m	149	29	クアドラフォグノズル	4
2	50mmホース×20m	30	30	滑車	6
3	65mmホース×10m	4	31	ハンドマイク	8
4	65mm管そう	7	32	草刈り機	1
5	プロジェクトガン	0	33	ビニールシート	6
6	フォグガン	2	34	粉末消火器	4
7	CAFS切替用ノズル	4		10型×4本	
8	放水砲（3,000ℓ/分）	1		20型×1本	
9	JETX-2高発泡器	1	35	水消火器訓練用	10
10	東消式簡易発泡器	2	36	泡消火薬剤	3,280ℓ
11	フォームショットガン	2		タンパク系薬剤（460ℓ）	
12	ジェットシューター	13		フッ素タンパク系薬剤（600ℓ）	
13	組立水槽（1,000ℓ型）	1		界面活性剤（420ℓ）	
14	山林火災消火用具セット	0		水成膜泡（1,800ℓ）	
15	消火栓圧力計	2	37	ラインプロポーショナー	5
16	鉄線カッター	5		LP-150×1	
17	災害現場用指揮機	1		LP-500×4	
18	警戒ロープ	1	38	泡消火薬剤補給用ポンプ	2
19	耐熱服	4		電動×1	
20	強力ライト	20		手動×1	
21	防爆型携帯用投光器	4	39	泡管そう	6
22	折りたたみ梯子	3		1000型×1	
23	万能オノ	4		400型×3	
24	携帯発電機	5	40	化学防護服	3
25	投光器	4	41	塩素系中和散布用人力防除器	1
26	リニアノズル	7	42	ディスクストレーナー	2
27	デジタルカメラ	2	43	低水位ストレーナー	1
28	エアーテント一式	2			

## 消防用資器材保有状況（救助）

平成29年4月1日

番号	機械器具名	数量	番号	機械器具名	数量
1	カギ付梯子	2	25	防塵メガネ	6
2	三連梯子	1	26	エアクッション式救助マット	1
3	救助用縛帯	3	27	山岳救助器具 一式	1
4	救助用担架	1	28	削岩機	1
5	油圧スプレッター	1	29	車両応急用具	4
6	油圧カッター	1	30	ドリル	2
7	チルホール	3	31	携帯用コンクリート破壊器具	1
8	エンジンカッター	2	32	救命索発射銃	1
9	エアーソー	2	33	送排風機 一式	2
10	可燃性ガス検知器	3	34	溶断機	1
11	酸素濃度検知器	1	35	携帯警報器	11
12	空気呼吸器	20	36	防塵防毒マスク	5
13	軽量空気ボンベ(15MPa)	25	37	シャックル	7
14	救命ボート 一式(船外機を含む)	1	38	簡易画像探索機	1
15	検索棒	1	39	夜光チョッキ	5
16	ワイヤーロープ	7	40	肘あて	5
17	耐電手袋	24	41	膝あて	5
18	耐電長靴	3	42	スコップ	3
19	安全帯	15	43	なた	1
20	スリング	9	44	鋸	1
21	サーバイバースリング	2	45	当て木 一式	1
22	チェーンソー	2	46	レスキューストレッチャー	1
23	救助リュック	3	47	マット式空気ジャッキ 一式	1
24	レスキューシザー	1	48	バスケットストレッチャー	2

## 消防用資器材保有状況（水難器具）

平成29年4月1日

番号	機械器具名	数量	番号	機械器具名	数量
1	レギュレーター	11	17	ポンベ	11
2	BCD	6	18	水中ナイフ	12
3	リスト水深計	6	19	水中ライト	10
4	リストコンパス	8	20	フラッシャー	6
5	水中時計	8	21	浮標一式	2
6	マスク	9	22	救命浮環	3
7	スノーケル	11	23	標識灯	1
8	フィン	9	24	ロープ（潜降索）	3
9	ドライスーツ	5	25	＂（基導索）	4
10	ウェットスーツ	15	26	＂（細索）	5
11	フード	8	27	フローティングロープ	3
12	フードベスト	16	28	カラビナ	6
13	グローブ	17	29	救命胴衣	10
14	ブーツ	12	30	ヘルメット	7
15	ウエイトベルト	9	31	レスキューチューブ	1
16	ウエイト	48			

# 消防用資器材保有状況（救急）

平成29年4月1日

番号	機械器具名	数量	番号	機械器具名	数量
1	デジタル携帯電話	3	35	スクープハーネス	4
2	タブレット端末	1	36	固定ベルト	8
3	Bluetoothヘッドセット	2	37	バックボード一式	5
4	除細動器	3	38	患者固定ベルト（バックボード用）	6
5	AED	3	39	布担架	3
6	患者監視装置	1	40	減圧式固定具（マジックギプス）	2
7	携帯用ECGモニター	2	41	減圧式固定具（バキュームマットレス）	1
8	携帯用パルスオキシメーター	3	42	ショートボード一式	2
9	携帯用CO2モニター	2	43	レスキューセット	2
10	携帯用血糖測定器	4	44	救急ヘルメット	6
11	CPRメーター	2	45	在宅医療処置セット	3
12	加湿流量計付き酸素吸入装置	2	46	聴診器	5
13	インハレータ	2	47	体温計	12
14	携帯用酸素吸入装置	2	48	検眼ライト	9
15	自動式人工呼吸器	3	49	携行用ハサミ	8
16	電動式吸引器	3	50	レスキューシザー	4
17	携帯用電動式吸引器	1	51	救急カバン	5
18	手動式人工呼吸器具（成人用）	5	52	コリークリップ	2
19	手動式人工呼吸器具（小児用）	3	53	膿盆	6
20	喉頭鏡	7	54	洗眼器	2
21	マギル鉗子	10	55	リングカッター	2
22	輸液ポンプ	2	56	特定小電力トランシーバー	6
23	血圧計（ウォール型）	2	57	耐刃防護衣	6
24	血圧計（アネロイド型）	3	58	救急隊ベスト	6
25	血圧計（自動式）	2	59	耐電手袋	6
26	ショックパンツ	1	60	自動手指消毒器	2
27	心肺蘇生用背板	2	61	毛布	14
28	自動式心マッサージ器	1	62	訓練用人形（成人モデル）	8
29	防振ベッド	2	63	訓練用人形（小児モデル）	5
30	レスキューシート	4	64	訓練用人形（新生児モデル）	7
31	雨おおい	2	65	静脈注射訓練用モデル	1
32	患者用レインカバー	3	66	気道管理トレーナー	1
33	メインストレッチャー	2	67	AEDトレーナー	6
34	スクープストレッチャー	4	68	ヘッドライト	6

## 消防用資器材保有状況（予防）

平成29年4月1日

番号	機械器具名	数量	番号	機械器具名	数量
1	ピトーゲージ	1	8	訓練用発煙器	1
2	危険物性状判定試験器 一式	1	9	クリノメーター	1
3	擬似電流試験器	1	10	ビデオカメラ	1
4	加熱試験器	2	11	デジタルカメラ	2
5	騒音計	1	12	防災絨毯判定器具 一式	1
6	ガス検知器	1	13	マイクロスコープ	1
7	炭化深度計	1			

## 消防用資器材保有状況（庶務）

平成29年4月1日

番号	機械器具名	数量	番号	機械器具名	数量
1	式典用放送設備 一式	1	3	式台	1
2	テント 一式	2	4	携帯型風向、風速計	1

## 消防用資器材保有状況（施設）

平成29年4月1日

番号	機械器具名	数量	番号	機械器具名	数量
1	バッテリー充電器	1	15	テスター	2
2	バッテリーテスター	1	16	工具 一式	1
3	エアゲージ	2	17	脚立（アルミ製）	2
4	ディスクグラインダー 一式	1	18	コンプレッサー	1
5	電気ドリル 一式	1	19	ガレージジャッキ	1
6	比重計	1	20	高圧空気圧縮機 （空気ボンベ充てん用）	1
7	電気丸鋸	1	21	双眼鏡	1
8	ジグソー	1	22	静圧計	1
9	インパクトドライバー	1	23	通過形電力計	1
10	真空計	1	24	終端形高周波電力計	1
11	圧力計	1	25	標準信号発信器	1
12	デジタルカメラ	1	26	可搬用八木アンテナ 一式	1
13	検電器	1	27	周波数カウンター	1
14	検電器チェッカー	1			

# 携帯電話等からの119番通報受信状況

平成28年度

月	那智勝浦町消防本部への受信状況								
	受信件数 計	うち県内他消防本部 等からの転送件数	通報内容種別等						他消防本部等へ の転送・伝送
			火 災	救 急	救 助	調査、 危害排除、 その他	病院紹介	その他 (誤戯報等)	
4月	22			19		1	1	1	
5月	25	1		22	2	1			
6月	19	1		17				2	
7月	20	1		17		1		2	
8月	30	1		23		2		5	
9月	35	2		29		1	1	4	
10月	27	2		22		1		3	1
11月	18	1		12	1		2	2	1
12月	40			35				5	
1月	48		1	44	1			2	
2月	17			13			1	3	
3月	32	2		27		1		4	
計	333	11	1	280	4	8	5	33	2

## 消防相互応援協定

平成29年4月1日

名 称	締結年月日	協定市町村名等	応 援 内 容
那智勝浦町・太地町消防相互応援協定	S61.3.31	那智勝浦町・太地町	火災・水害・救急その他の災害
和歌山県防災ヘリコプター応援協定	H8.2.22	和歌山県下の市町村及び消防の一部事務組合	消防組織法第1条に規定する水火災又は地震等の災害
和歌山県下消防広域相互応援協定	H8.3.1	和歌山県下の市町村及び消防の一部事務組合	自然災害・火災・大規模又は特殊な事故・上記以外の災害で、応援を必要とする災害
紀南消防協定	H8.11.1 (H26.7.24) 改定	那智勝浦町・田辺市・白浜町・串本町・新宮市・熊野市	自然災害・火災・大規模又は特殊な事故・消防業務遂行上必要とする応援（調査及び検査を含む。）

## その他の協定

平成29年4月1日

名 称	締結年月日	協定市町村名等	応 援 内 容
船舶消防等に関する業務協定	H10.8.1	串本海上保安署	「海上保安庁の機関と消防機関との業務協定の締結に関する覚書」に基づき、串本海上保安署と本町消防本部が船舶消火活動に関して協定するとともに救急救助活動についても協力体制を確立し、相互の機能を活用し海上における防災活動の万全を期する。
高野小森川トンネルの非常通報装置等の通報等に関する協定	H17.4.1	古座川町・串本町	林道小匠小森川線の高野小森川トンネル内の非常電話及び非常通報装置の通報先並びに出動体制の構築
医師等による救急活動の実施に関する協定	H29.3.31	独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター	救急現場から傷病者を医療機関等へ搬送するまでの間において、傷病者が医師による医療行為を必要とする状況となった場合、医師派遣用自動車（ドクターカー）により救急現場に赴き活動する。

# 消防水利

## 簡易防火水槽

平成29年4月1日



内容量：6t  
材 質：F.R.P  
現有数：52基

設置年度	設置数	設置年度	設置数
昭和 61年度	(試作)1基	平成 5年度	5基
昭和 62年度	5基	平成 6年度	5基
昭和 63年度	5基	平成 7年度	6基(内20t1基)
平成 元年度	5基	平成 8年度	3基
平成 2年度	5基	平成 9年度	3基
平成 3年度	5基	平成 10年度	2基
平成 4年度	5基	平成 11年度	0基

本町において郊外や山間部の災害対応では、遠距離水利の使用を余儀なくされるため、消防力の基準内防火水槽の設置を進めるとともに、この簡易防火水槽を広範囲の無水利地区に設置することにより、火災防ぎょにおける初期消火の重要性から、後着隊の充分期待できる地域には1基(6t)、無水利地区には連結2基(12t)を原則に設置している。

この防火水槽の特徴としては、製作費用が安価で、連結が可能であり、高位置に設置すれば地区住民による初期消火が可能とともに、防火意識の高揚につながることを期待している。

なお、平成10年度をもって事業を終了した。

## 主な消防水利の設置状況

地区	水利合計	消火栓						貯水槽					簡易水槽	指定水利				ホース収納の有無	
		地下式	地上式	150ミリ未満	150ミリ	150ミリ超	40t未満	40t	40t超	耐震性有	プール	池		河川	その他				
勝 浦	80	75	74	1	40	35		4		4				1					53
那 智	282	245	238	7	160	36	49	16	1	14	1	1	7	1	2	2	9		95
宇久井	140	113	107	6	106	7		14	1	13		1	12	1					45
色 川	23												22				1		
下 里	109	99	94	5	78	21		7	1	6		2	2			1			78
太 田	84	68	67	1	46	9	13	6	1	5			9			1			9
計	718	600	580	20	430	108	62	47	4	42	1	4	52	3	2	4	10		280

簡易防火水槽は、町独自の設置

### 指定水利

- 1 小学校プール 勝浦・市野々・宇久井各小学校 内容量は各々約500t
- 2 池 湯川地内橋の川奥・那智高原公園内
- 3 河川 八尺鏡野、上長井、二河地内2か所

那智の歴史と文化を  
火災から守る

平成12年度完成

那智山地区

# 自然水貯水型 消防水利施設

## 施設の概要

工期	平成9年度～平成12年度	
施設		
送水管布設	口径 100mm～150mm 延長 696m 管種 鋳鉄管及び高性能ポリエチレン管	
消火管布設	口径 75mm～150mm 延長 757m 管種 鋳鉄管及び高性能ポリエチレン管	
防火水槽	200t級 1基 40t級 2基	
消火栓	7基	
事業費	79,570千円	
財源内訳	起 債	74,700千円
	一般財源	4,870千円

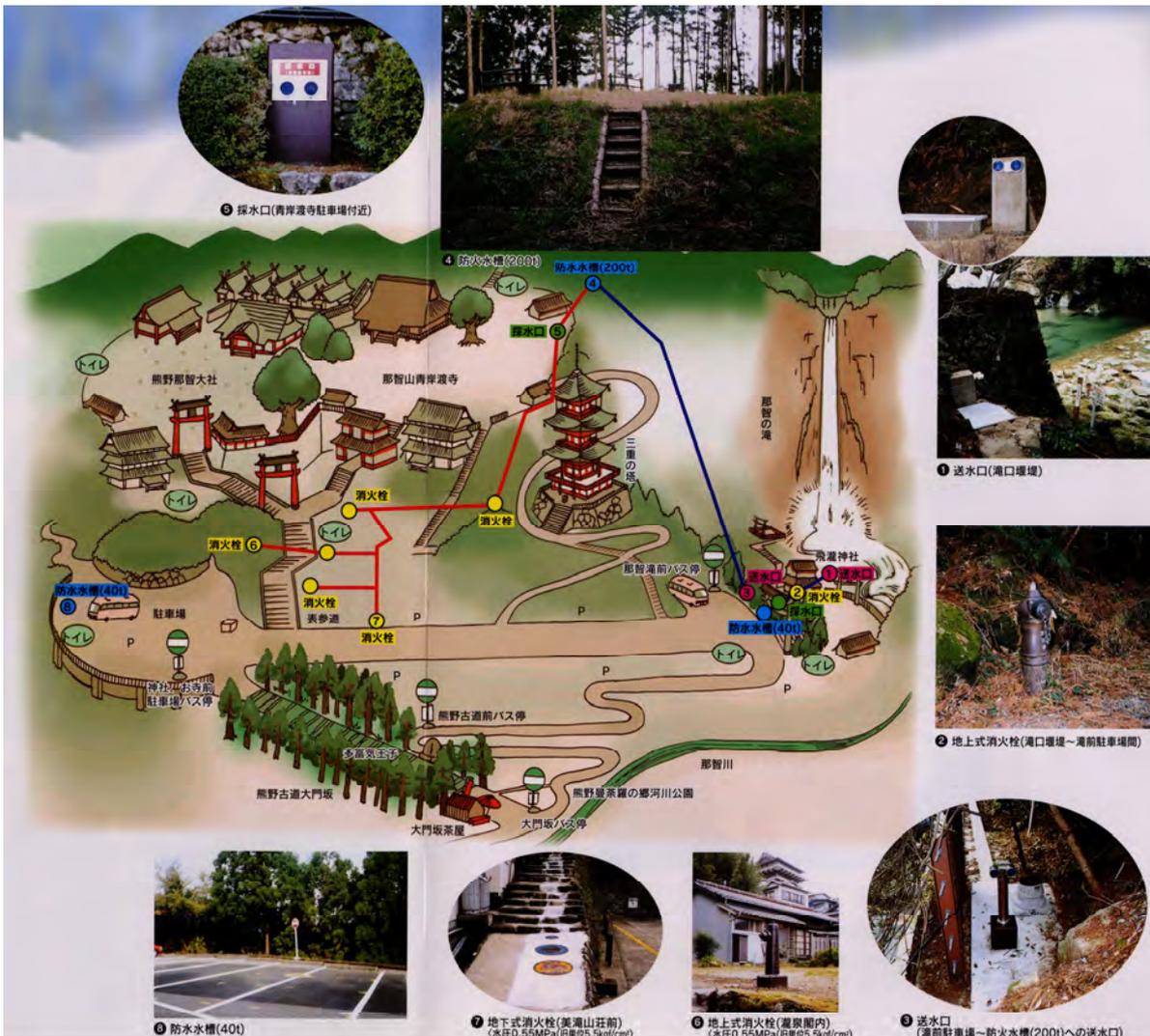
## 那智山地区自然水貯水型消防水利施設について

那智山地区は、高低差約200メートルの急傾斜地に位置し、重要文化財である神社や寺院、そして名瀑「那智の滝」を軸に開けた観光地で、参道に面して土産物店や飲食店等が立ち並んでいるが、上水道が引かれていない無水利地区であり、火災に際して消防水利の確保が永年の懸案事項であった。

そこで、高位置に「那智の滝」の自然水を水源とする200トン級防火水槽1基、低位置に40トン級防火水槽2基を配置し、この間を消火栓を取り付けた消火管で接続することによって地区全体の消防水利をカバーしている。これにより、消火栓による有圧放水及び防火水槽に部署した消防ポンプ自動車等による放水が可能となった。

なお、この事業は、平成9年度から平成12年度までの4か年にわたり、消防庁の「防災まちづくり事業」として採択を得て、実施したものである。

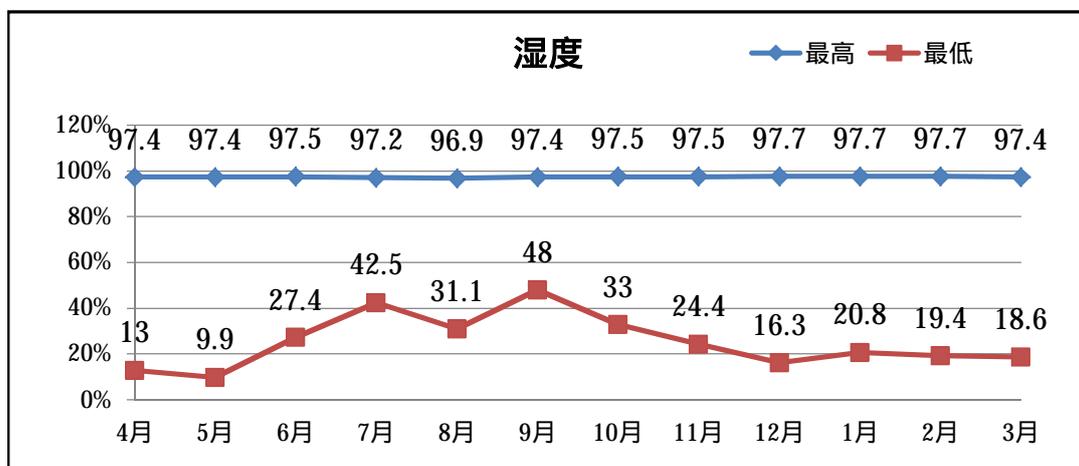
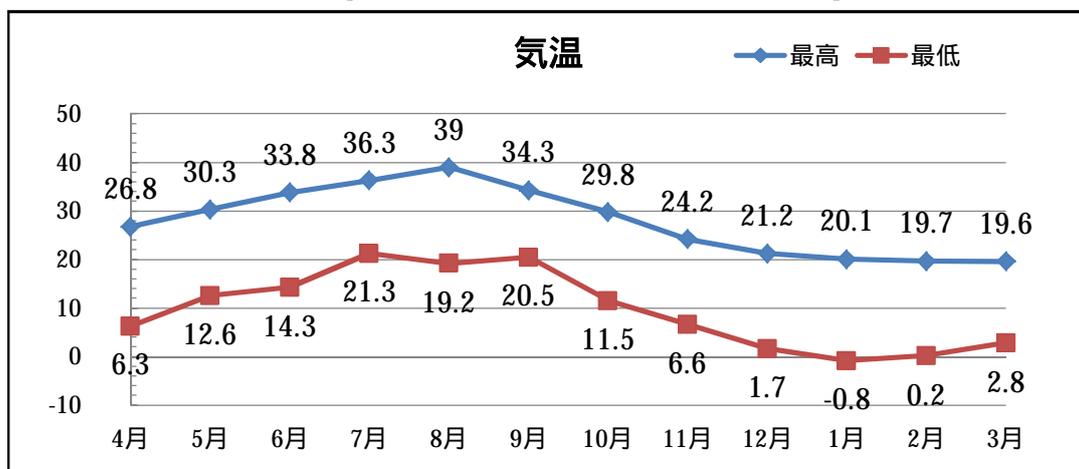
# 那智山地区自然水貯水型 消防水利施設系統図



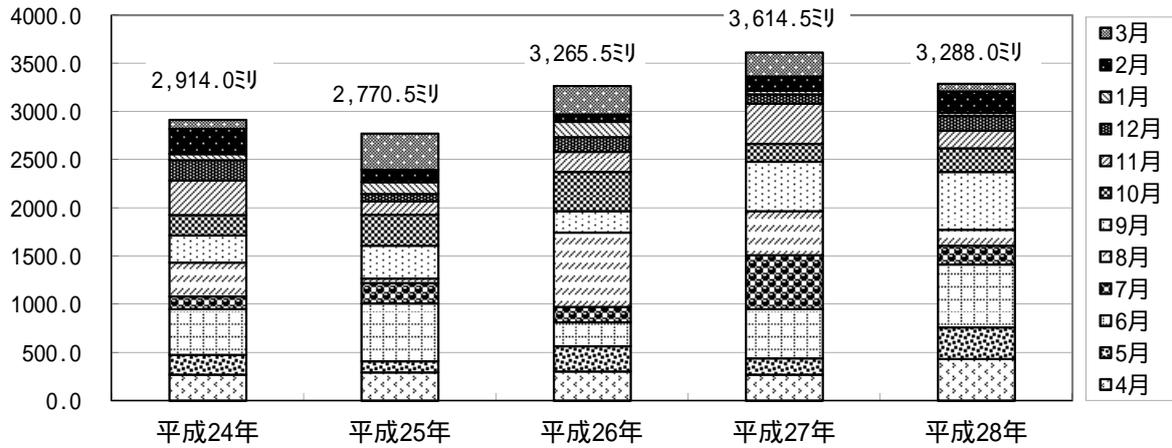
# 気象警報・注意報・情報

警報			注意報			情報		
大雨	8	回	乾燥	26	回	台風	40	回
洪水	7	回	大雨	36	回	大雨	1	回
暴風	1	回	洪水	34	回	火災気象通報	86	回
津波	0	回	強風	78	回	潮位	0	回
大津波	0	回	波浪	75	回	低気圧	0	回
水防	0	回	雷	92	回	地震	22	回
高潮	0	回	高潮	18	回	各地の震度	2	回
波浪	1	回	濃霧	0	回	津波	1	回
			霜	26	回	土砂警戒	0	回
			津波	0	回	竜巻	30	回
			風雪	4	回	水防配備態勢	4	回
			突風	0	回	落雷	0	回
			雹	0	回	大雪	4	回
			大雪	0	回	河川氾濫	0	回
			低温	0	回	濃霧	0	回
						突風	0	回
						降雹	0	回
						その他	132	回

## 平成28年度気温・湿度グラフ (測定場所 消防庁舎屋上)



### 過去5年間の月別降雨量（測定場所 消防庁舎屋上）

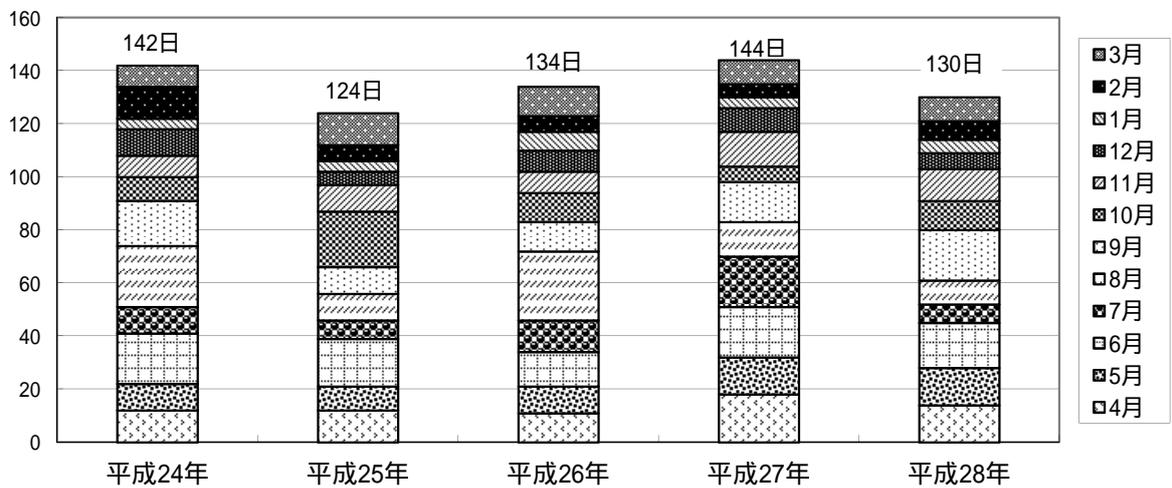


（単位：ミリ）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成24年	270.5	206.5	473.5	130.5	351.5	282.5	213.0	358.0	210.5	61.5	262.0	94.0	2,914.0
平成25年	293.5	117.0	600.0	212.0	43.5	343.0	321.0	138.0	78.5	123.0	129.0	372.0	2,770.5
平成26年	304.5	259.5	250.5	159.0	772.5	220.5	406.0	211.5	150.0	160.0	75.0	296.5	3,265.5
平成27年	270.0	170.5	509.5	559.0	459.0	510.5	186.5	417.0	98.0	35.5	149.5	249.5	3,614.5
平成28年	431.0	330.0	653.5	195.5	165.0	598.5	246.0	181.0	154.0	32.5	223.0	78.0	3,288.0

\* 平成28年1月21日から2月5日までの間、新指令室工事に伴い降雨量欠測箇所あり

### 過去5年間の月別降雨日数



（単位：日）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成24年	12	10	19	10	23	17	9	8	10	4	12	8	142
平成25年	12	9	18	7	10	10	21	10	5	4	6	12	124
平成26年	11	10	13	12	26	11	11	8	8	7	6	11	134
平成27年	18	14	19	19	13	15	6	13	9	4	5	9	144
平成28年	14	14	17	7	9	19	11	12	6	5	7	9	130

\* 平成28年1月21日から2月5日までの間、新指令室工事に伴う降雨量欠測のため降雨日数未計上